

教育活動報告

森の台小学校の教育活動

令和4年度の振り返りと
次年度の教育活動について

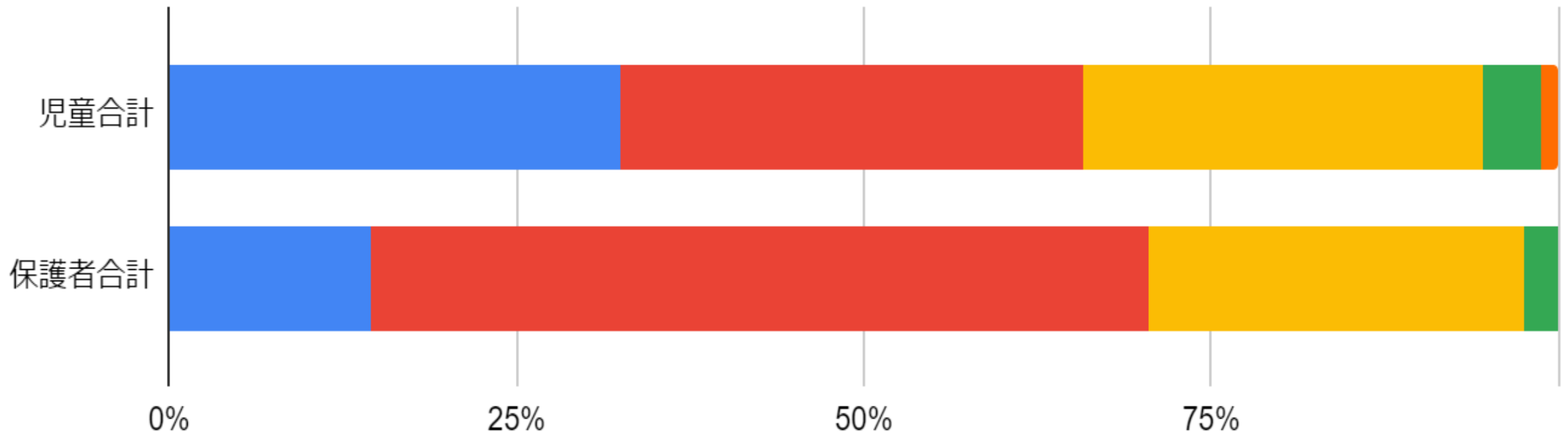
令和5年2月
横浜市立森の台小学校



①授業改善

①学校は、指導や支援の方法を工夫し、分かりやすい授業に努めている。【授業改善】

■ かなりそうおもう ■ まあまあそうおもう ■ ふつう ■ あまりそうおもわない ■ そうおもわない



- ・肯定評価 70%
- ・指導や支援の工夫
ICT機器・1人1台端末の活用 教科担任制
児童が主体的に学ぶことができ、分かりやすいと感じる授業づくり



- 子ども達の約30%が「かなりそう思う」と答えてくれているのは大変嬉しい結果。「あまりそう思わない」と答えている児童が全体の8%ほどいることを全教員で真摯に受け止め、全ての児童にとって「分かりやすい授業」「楽しい授業」を目指し、さらなる努力を続ける。
- 教科担任制については、さらに充実を図る。児童、保護者が、様々な教員が関わる大切さと意義を感じていることが分かる。教員の専門性や人間性を生かし、学年の子ども達を学年チームみんなで育てる「チーム学年経営」の意識をさらに高めていく。
- 一人一端末の活用はかなり進んできた。子ども達も自然に使っている。今後は、個人端末から集団での学びの充実につながる、ICT機器の導入も検討。
- 次年度も「子ども達が主体的に学ぶ」ための授業改善に全教員で取り組む。

教科担任制アンケートより

- ・ 学年のほかの先生との学習が楽しい90%
- ・ ほかの先生の授業がわかりやすい88%
- ・ 担任の先生以外に相談できる68%
- ・ ほかの先生が関わってくれるので安心84%
- ・ 学習に意欲的に取り組むために学年の様々な先生との関わりが大切（保護者）94%
- ・ 安心して学校に通うために学年の様々な先生との関わりが大切（保護者）97%

チーム学年経営

- 3年生以上でこれまで行っていた音楽や家庭科の専科の授業に加え、
社会や理科、外国語活動、図工、体育を中心に教科担任制
- 教科の専門性を向上させ、授業の改善・質の向上を図る
- 一人の児童に対して複数の教員が関わることで子どもたちのもつ様々な側面を捉える
- 子ども達にとって複数の教員に相談できるよさ

市学力・学習状況調査の結果



- ・学力は全体的に横浜市の平均に比べ上回っている。
- ・生活意識・学習意識は市の平均に比べ児童の意識は低い 自己表現・問題解決
- ▼「自分の考えを相手に分かりやすく伝えていますか」
- ▼「問題を解決するときにはじっくりと考えた上で物事を判断するようにしていますか」

- ・学力に関しては、横浜市の平均を上回った結果が出ている。

- ・「生活意識・学習意識」は、市の平均に比べると低い。

特に「自分の考えを相手に分かりやすく伝える」、

「問題を解決するときじっくりと考えて物事を判断する」項目が低め。

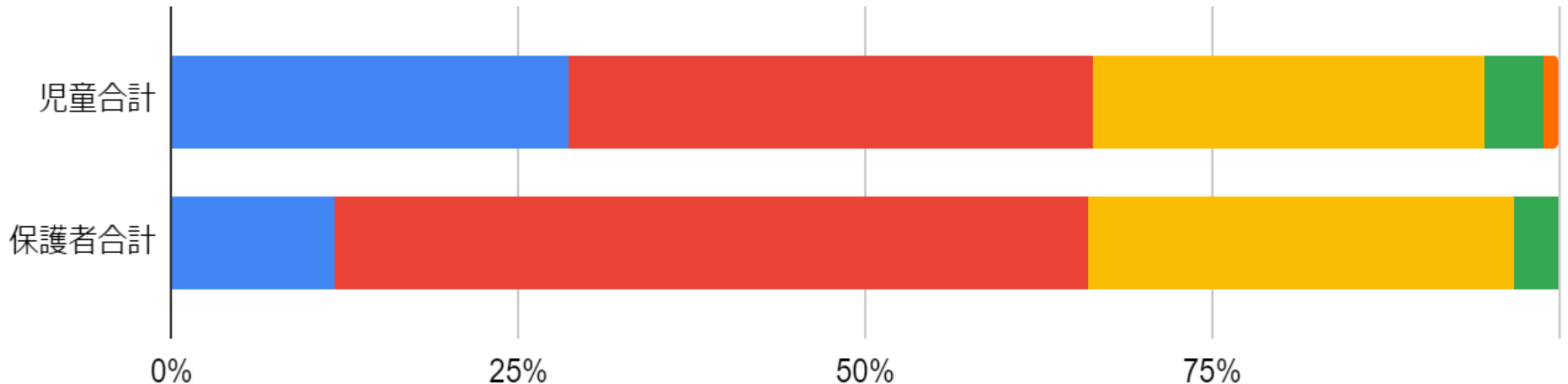
自分で考えて自信をもって判断すること、積極的に自分の考えを友達などに表現することを苦手と感じている児童が多いことが伺える。

しっかり思考すること、自信をもって表現することに力を入れて支援、指導を行う。

②人権教育

②学校は、道徳の授業や児童会の取組、人権週間などを通して、子どもたちの規範意識の向上を図り、個性の違いを認められる心や思いやりの心を育てている。【人権教育】

■ かなりそうおもう ■ まあまあそうおもう ■ ふつう ■ あまりそうおもわない ■ そうおもわない



- ・肯定評価 70%
- ・児童会活動 「森小みんながハッピープロジェクト」
横浜子ども会議 いじめ防止市民フォーラム ピンクシャツデー
社会のルールとマナー教室などの出前授業 道徳の授業の充実

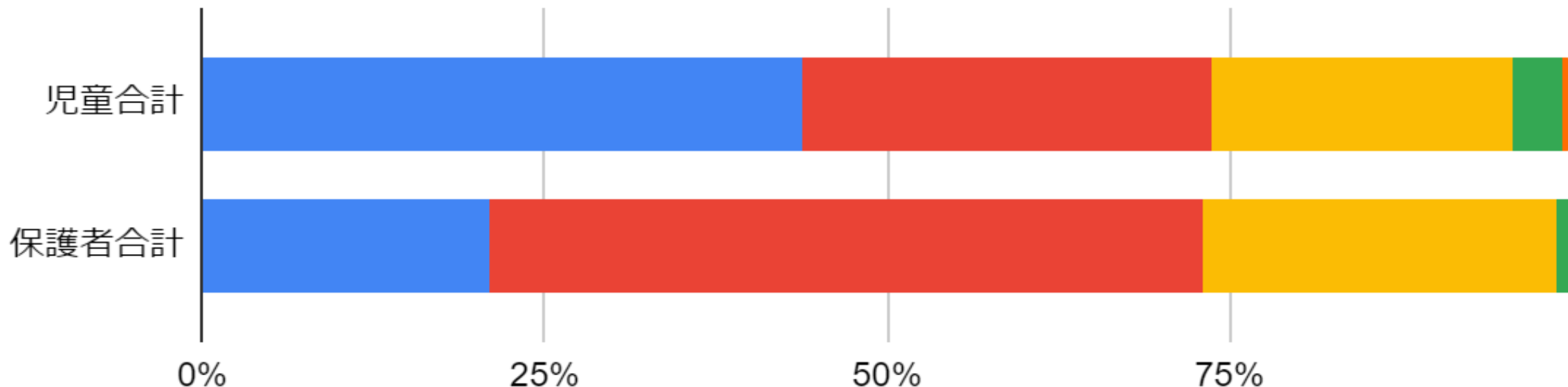


- ・自分を大切にし、友達を大切にする意識を高める教育を、様々な教育活動において進めている。児童も保護者も概ね肯定的な評価。
- ・児童会中心で進めた「森小みんながハッピープロジェクト」では、子ども達が主体となって、「だれもが居心地のよい学校」にするための取組を行った。挨拶だけでなく、友達との接し方やみんなが安心して過ごせるルールづくりなどに取り組んだ。
- ・今後は「学校のきまり」についても、児童が主体となって考え、「子どもによる子どものためのきまり」になるように改善を図っていきたい。

③健康教育

③体育や保健の授業、給食の学習に進んで取り組んでいる。【健康教育】

■ かなりそうおもう ■ まあまあそうおもう ■ ふつう ■ あまりそうおもわない
■ そうおもわない



- ・肯定評価 74%
- ・日常の体育学習の工夫 学年を2つに分けた水泳学習
運動会の全校開催 全校児童と保護者参観で実施 5年生スポーツ交流会
食育・給食週間の取組

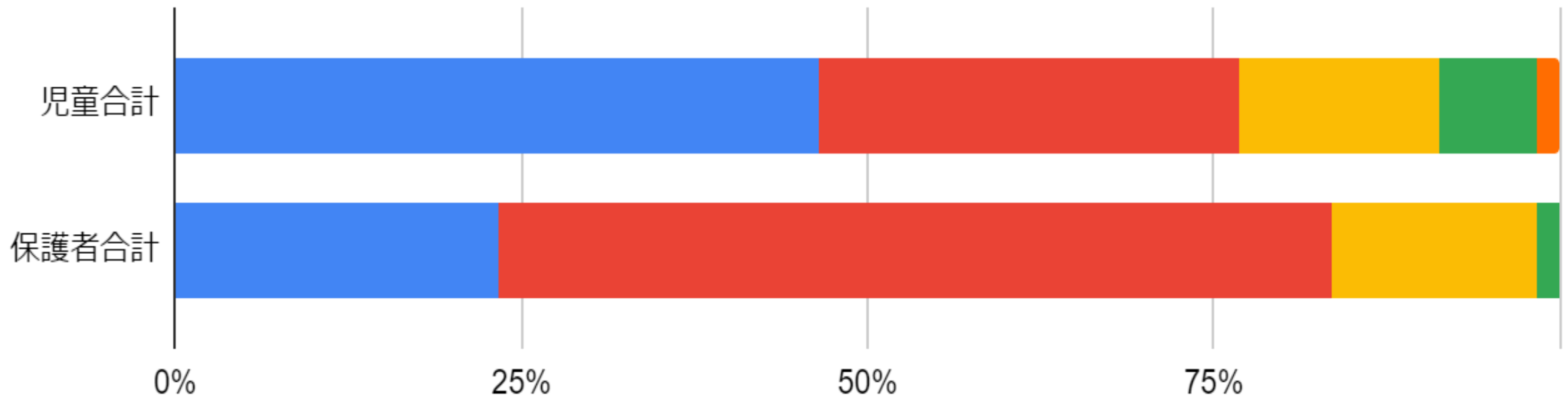


- 日々の体育の学習において、様々な運動に親しむ機会を大切にしてきた。体育の授業を楽しみにしている児童、満足している児童が多く見られる。今後も子ども達が運動する機会の充実を図っていく。
- 3年ぶり全学年実施の水泳学習 学年を2つに分けて
1・2・3年生は初めての水泳
- 運動会 応援合戦、高学年リレーなどの競技 全校児童で盛り上がる
2年玉入れ、4年台風の目、6年とびつき綱引き
1年ダンス、2年エイサー、3年の縄、4年の体操、5・6年ソーラン節
- 5年「緑区スポーツ交流会」 サッカーとプレルボールで三保小と交流
- 感染症における児童の健康維持意識は高く、マスクや手洗い等、給食時の黙食も定着している。今後は、感染予防に努めながらも、通常の生活に無理なく戻れるように支援をしていく必要がある。
- CO2モニター導入により、児童の教室換気の意識を高めることにつながっている。

④自分づくり

④学校は、異学年で構成する縦割り活動（ふれあいタイム）や自分づくりパスポートでの振り返りを通して、子どもたちの自主性と実践力を育てている。【自分づくり】

■ かなりそうおもう ■ まあまあそうおもう ■ ふつう ■ あまりそうおもわない ■ そうおもわない



- ・肯定評価 77%
- ・児童会活動 1年生をむかえる会 ペア学年での音楽集会
ふれあいタイム 年間9回の異学年交流活動 全校ふれあいピクニック
自分づくりパスポート 小1から中3まで9年間の児童自己評価ファイル

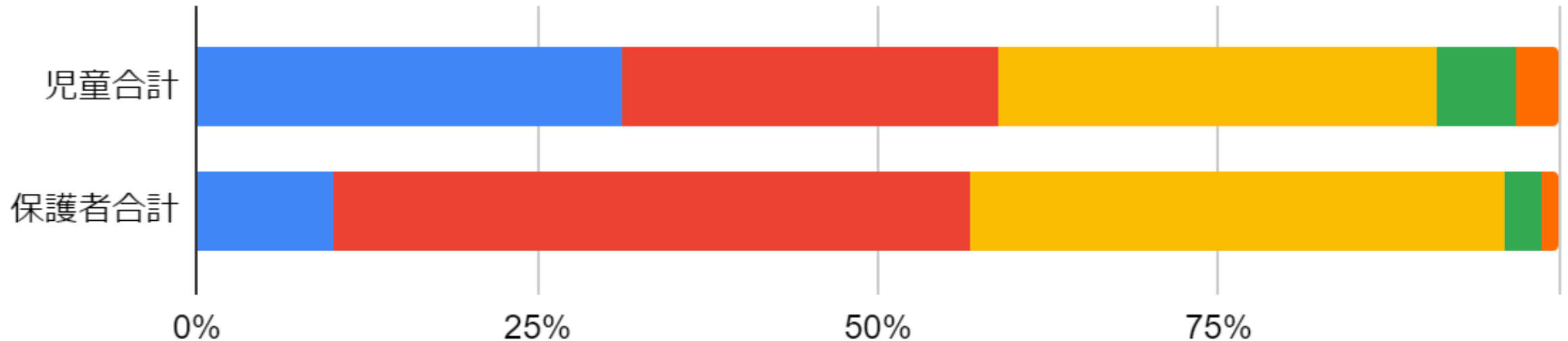


- ・ 1年生から6年生がまざった「ふれあいグループ」 異学年交流活動
- ・ 音楽集会 ペア学年を招待して体育館発表
合唱はマスク着用 間隔をあけて歌う
- ・ 特別活動を中心として、児童が異学年や様々な人との関わりを通して、自分のよさや友達のよさに気付くことが概ねできている
児童においては「あまりそう思わない」のポイントがやや高くなっている
集団において自己を表現したりいろいろな役割を果たしたりする機会を増やし、自己有用感を高める活動の充実を図る。

⑤いじめへの対応

⑤学校は、いじめ防止委員会、横浜プログラムやアンケート等を活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努めている。【いじめへの対応】

■ かなりそうおもう ■ まあまあそうおもう ■ ふつう ■ あまりそうおもわない
■ そうおもわない



- ・肯定評価 60%
- ・横浜プログラムによる学校やクラスの居心地アンケート（6月・10月）
いじめに関するアンケート（5月・11月） 子ども面談週間



・毎月のいじめ防止研修 組織的対応

いじめを見逃さない目や初期対応の在り方を全職員で学び合う

いじめを早期発見し、いじめ防止対策委員会を開き、迅速に組織的対応

児童の訴えや保護者の方からの情報をキャッチし、いじめ対策委員会で共有、組織的な対応に努めている。
児童からしっかり聞き取ることや、辛さを訴えてきた子の気持ちに寄り添うことなどを重視し、
児童自身が安心できるまで丁寧な見守りと継続的な支援を行っている。

・全児童を全職員で見守る 情報共有

学年や児童指導部で情報共有し、少しのことでも職員間で連携を図り対応

教科担任制を行い学年すべての児童に関わることで早めに気付き対応

児童の声を日常的に聞く機会、子ども面談週間を設けるなど、全教職員が児童の声に傾けるように努める。

・児童の実態把握

いじめに関するアンケートの実施 5月・11月

⇒アンケートをもとに子ども面談 5月・11月

横浜プログラムによる学校・学級居心地アンケートの実施 6月・10月

・人権週間や児童会活動の取組

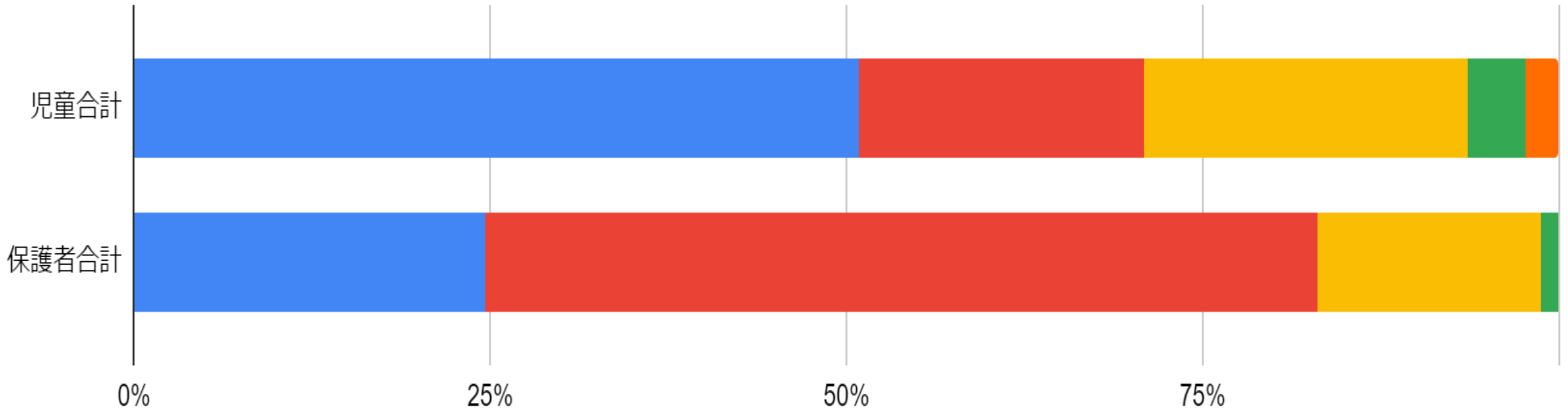
児童主体でいじめ反対のメッセージを定期的に発信

いじめをしない・させない・許さない学校の雰囲気風土づくり

⑥地域学校協働活動

⑥学校は、地域の人材や学習材を取り入れた学習活動（まち探検、花いっぱい活動、福祉や防災、安全に関わる地域の方による学習）を展開しているとともに、学校だよりや学校ウェブサイト等を活用して情報公開に努めている。【地域学校協働活動】

■ かなりそうおもう ■ まあまあそうおもう ■ ふつう ■ あまりそうおもわない ■ そうおもわない



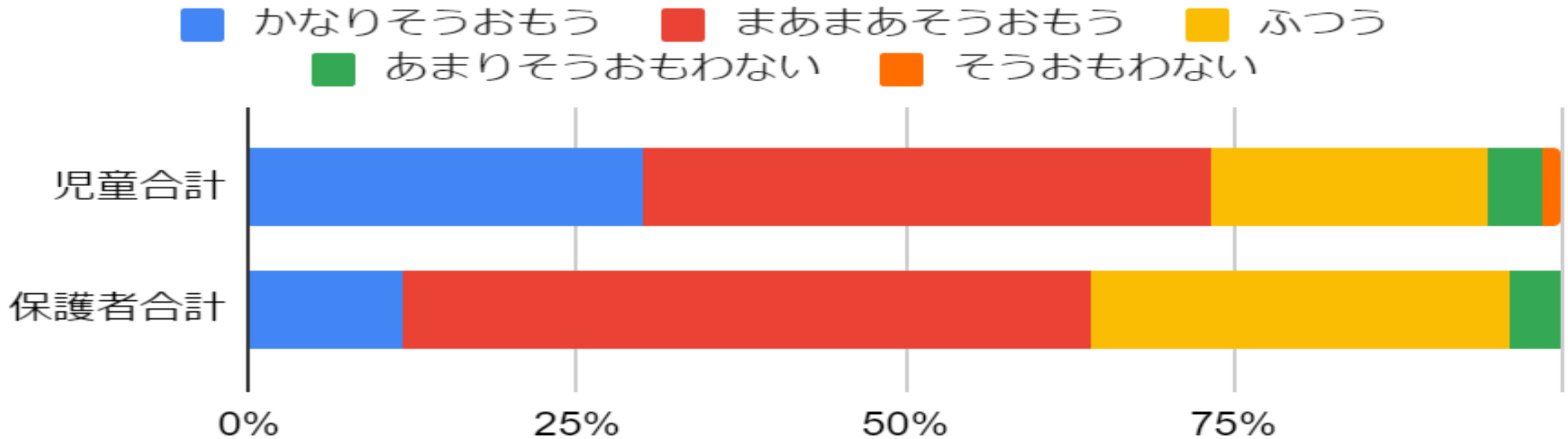
- ・ 肯定評価 80%（保護者）
- ・ まち探検 花いっぱい活動 稲作体験 ボランティア清掃 PTA活動
交通安全教室 福祉・防犯・防災・水道などの出前授業
学校ウェブページで教育活動の発信



- ・ コロナ禍で止まっていた地域との交流学習が少しずつ再開。
児童が地域を意識し、よさを実感できる学習（地域の方による出前授業など）の機会を積極的につくっていく。
- ・ PTAのご協力もいただき、多くの保護者の皆様に教育活動へご参加いただいた。（1・4年交通安全教室、2年花いっぱい活動、5年稲作体験など）
今後も教育活動を伝えるよい機会と捉え、保護者の皆様に積極的に発信。
- ・ 花壇ボランティアや図書ボランティア、お話ポケットなどのボランティア活動では、少しずつコロナ禍以前の状態に戻ってきており、ご協力に感謝している。
PTAボランティアの活動について、児童や保護者に発信する機会をつくる。
- ・ 地域行事の再開や、児童が地域で学習する機会も増えてきた。今後も充実を図る。

⑦児童指導

⑦学校は、社会的マナーやネット利用に関する出前授業等を実施し、児童の規範意識を育てている。【児童指導】



- ・肯定評価 65% (保護者)
- ・6年生 社会のルールとマナー教室
- ・5・6年生 ネットトラブル防止教室
- ・1・4年生 交通安全教室 歩き方・自転車の乗り方

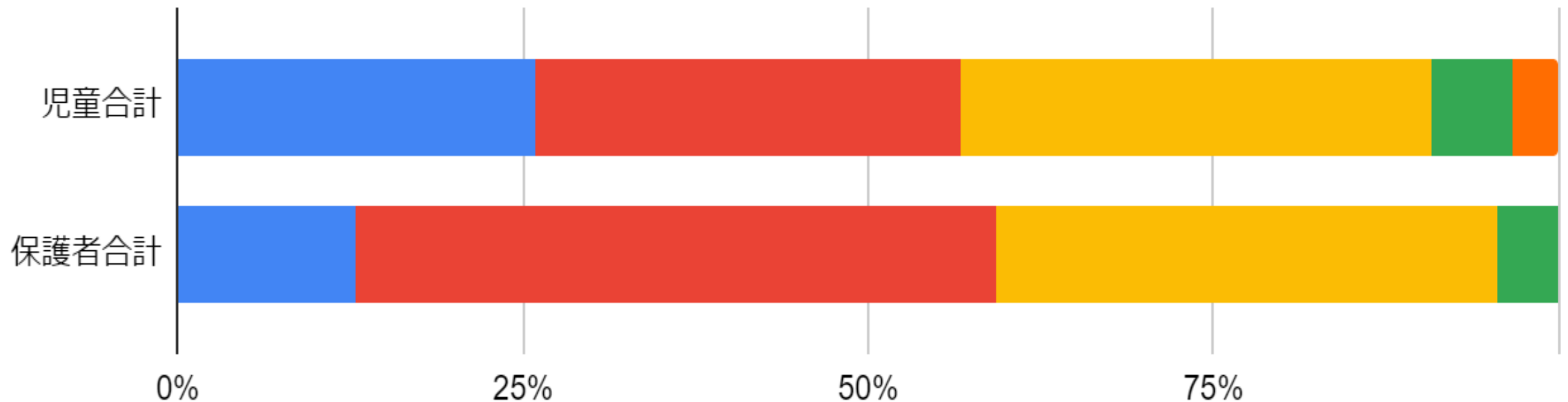


- ・ 5・6年 社会のルールとマナー教室 緑警察スクールサポーター
- ・ 5・6年 ネットトラブル防止教室 LINE オンライン講座
- ・ 4・5・6年 SNS等のネットトラブルの未然防止教室 オンライン講演
- ・ 1・4年 交通安全教室 緑警察・交通安全協会
全学年 交通安全に関する学習
- ・ 未然防止の視点で、社会的なマナーやネット利用等に関する意識を高める教育を年間複数回繰り返し実施。
家庭と学校が協力し合えるように、情報発信を積極的に行っていく。

⑧特別支援教育

⑧学校は、一人ひとりの児童の実態に応じた指導や支援の仕方を工夫している。（各学級での支援・きらきら教室での学習支援・不登校児童の支援）【特別支援教育】

■ かなりそうおもう ■ まあまあそうおもう ■ ふつう ■ あまりそうおもわない ■ そうおもわない



- ・ 肯定的評価 60%
- ・ 否定的評価 20% (児童)

「学級やきらきら教室などで、自分に合ったペースで学習を進めたり、自分のやりたい学習方法を選んで学ぶことができています」



特別支援教室

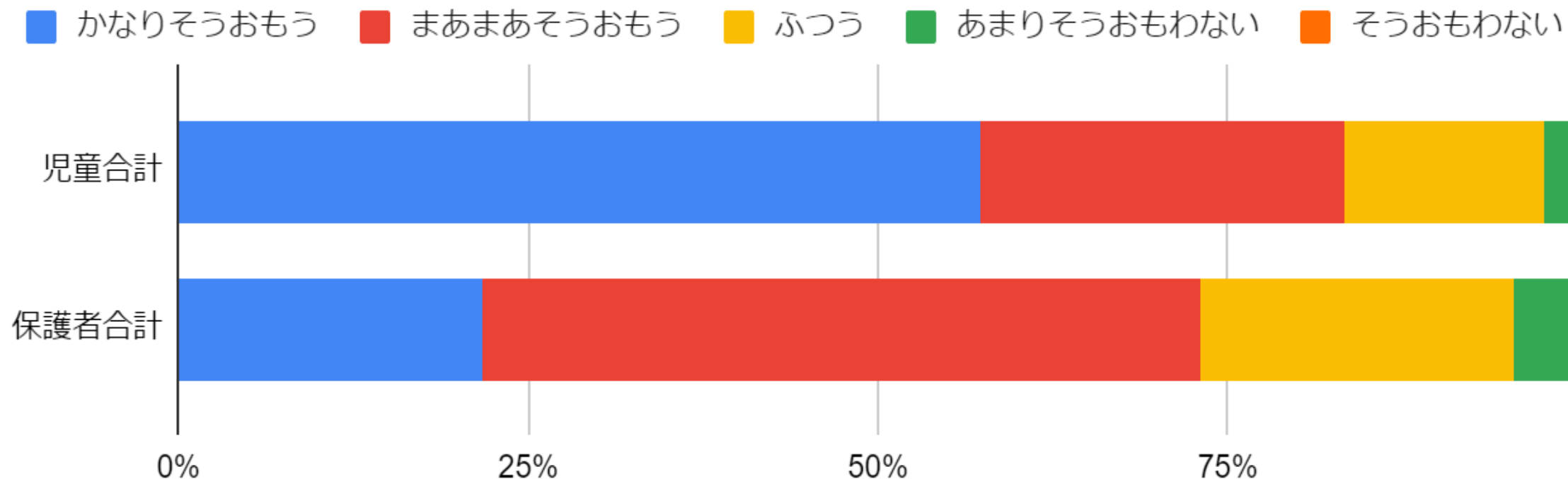
- ・ 個別学習での学習支援 3年生以上 週2回程度 主に算数・国語
- ・ 児童一人一人の状況を的確にとらえ、保護者の方とも共通理解した上で、学校ができる範囲で必要な支援を行っている。
特別支援教室の拡充を図り、様々なニーズに対応できる環境と指導体制を工夫していく。

ユニバーサルデザイン

- ・ 学習の流れを視覚的にわかりやすく掲示するなど、全ての児童が落ち着いて学習に取り組めるような教室環境づくりに取り組んでいる。
教室環境や教材の整備など、今後も学校全体で徹底を図る。

⑨GIGAスクール

⑨学校は、1人1台端末（タブレット端末）の活用に努めている。【GIGAスクール】



- ・ 肯定的評価 83%（児童）
「タブレット端末(iPad)を使った学習に進んで取り組んでいる」
ICTの活用が日常 個別最適化され創造性を育むICT環境の整備
高速通信ネットワーク クラウド活用
ICTを適切・安全に使いこなす ネットリテラシーなどの情報活用能力



1人1台端末の活用

- ・タブレット端末の活用は、高学年を中心に進んでいる。
自分の意見をまとめる、みんなで共有する、調べたいことを検索して調べる、など、目的に合わせて使うことができる。
- ・タッチペン ・ワークシートやノートとして ・シンキングツール
- ・情報検索 ・動画コンテンツ
- ・考えの共有
- ・写真や動画撮影
- ・今後の端末活用のキーワード…
 - ⇒ ・デジタル教科書 ・デジタルドリル ・個別最適AIアプリ
 - ・端末の持ち帰り
 - ・横浜どこでもスタディ
 - ・オンライン学習システム（メクビット）

⑩学年行事

- ・感染拡大防止対策を継続しながら、児童によりよい体験をとという視点で、各学年で学年行事の立案、実施に取り組んだ。
校外学習では、児童が実体験を通して学ぶことができた。
- ・ 1年 こどもの国遠足
- ・ 2年 ズーラシア遠足
- ・ 3年 つくし野アスレチック遠足 森永製菓・こども科学館社会科見学
- ・ 4年 資源循環局都筑工場
高尾宿泊体験学習 9月 宮ヶ瀬ダム プログラムアドベンチャー
- ・ 5年 ふれあいコンサート
西湖宿泊体験学習 9月 富士山砂走り カヌー 洞穴
- ・ 6年 東京見学 国会議事堂 東京タワー
日光修学旅行 7月 戦場ヶ原ハイキング 東照宮 お土産購入
- ・ 8・9・10組 個別支援級 造形教室 合同学習発表会

⑪次年度の教育活動

新しい日課表 40分授業午前5時間制

- 集中力のある午前中に教科を中心とした5時間を行う 学習の効率化
- 新たに生まれる午後の森小タイム(20分) 基礎基本の定着 集会や避難訓練など弾力的に活用
- 午後の森小タイムと6校時の時間を合体したロング6校時(60分)
総合的な学習や特別活動等、活動を中心とした子どもたちの創意工夫が活かされる学習を展開
- 放課後の時間の充実 教材研究・準備・研修の時間の確保により教職員の資質向上

持続可能な学校の実現

- 働き方改革 (2018年度指標)
 - ・時間外勤務80時間超の教職員の割合0%
 - ・19時までには退勤する教職員の割合70%以上
 - ・年休取得日数 全員10日以上
- ・ペーパーレス化
- ・メール配信
- ・学校ウェブページ活用
- ・留守番電話
- ・学校閉庁日
- ・校務のICT化
- ・アウトソーシング (業者集金・ネット注文等)



40分授業午前5時間制

- 一単位40分授業とし、午前中5コマ授業とする。
給食開始は10分遅くなり、12時25分開始。
- 午後の昼休み、清掃後に「森小タイム」と称する学習時間を20分設ける。
5校時で下校する学年は、森小タイムの後、帰りの会を行って下校。
- 森小タイム20分と6校時の40分をつなげた60分の「ロングタイム6校時」は、総合的な学習の時間など、弾力的に学習活動を展開することも可能。
- どの学年も児童の下校時刻が従来より早まる。
6時間授業 14：55下校 5時間授業 14：15下校

ねらい

- 40分授業で児童の集中力持続、比較的集中できる午前5時間授業を通して、より学習に集中して取り組めるようにすることが最大の目的。
- 放課後の時間を確保し、児童の学校外での活動の充実を図る。
教職員においては教材研究、準備、研修等の確保により、より質の高い授業を行うこと、指導力、授業力の向上、長時間労働の改善にもつなげる。

⑫次年度の主な行事予定

4月	7日	始業式・入学式	20日	学級懇談会		
5月	1～11日	個人面談	25・26日	授業参観		
6月	19・20日	5年西湖宿泊体験学習	22日	全校遠足		
7月	12・13日	6年日光修学旅行	21日	夏季休業開始		
8月	28日	授業開始				
9月	11・12日	4年高尾宿泊体験学習	22日	学級懇談会		
	25～29日	個人面談				
10月	8日	前期終了	10日	期分け式	21日	運動会
11月	25日	土曜参観	※振替休日12月25日			
12月	18～21日	教育相談（希望制）	23日	冬季休業開始		
1月	9日	授業開始				
2月	20・22日	授業参観・懇談会				
3月	19日	卒業証書授与式	25日	修了式・離任式		
	26日	学年末・春季休業（～4月6日）				

※予定は変更になる場合があります。ご了承ください。



森の台小学校の教育活動

令和4年度の振り返りと 次年度の教育活動について

- 各行事や教育活動の意義について改めて再確認し、見直しを行う。
- 持続可能な学校教育のあり方（教職員の働き方も含めて）について様々な視点から考えていく。
- 子ども達や家庭の変化、社会の変化、価値観の多様化に柔軟に対応できるようにする。
- 子ども一人ひとりの思いを大切にしていける教育をさらに進める。

令和5年2月 横浜市立森の台小学校

